令和3（2021）年度 各分掌部・学部の目標及び自己評価

A…十分達成できた

B…おおむね達成できた

C…あまり達成できなかった

	目標	具体的な取組	評価の観点	評価	自己評価	改善方法
教務部	・ICTを活用した校務処理の改善、充実を図る。	・校務支援システムの導入に伴い、支援システムや電子決裁等を検証し、校務処理のスリム化、改善に努める。	・校務支援システムを活用し、校務処理が改善できたか。	B	・電子決裁や電子受付を導入することができた。また、会議資料を電子化し、校務のスリム化につながった。校務支援システムについては進行中である。	・校務支援システムの導入を進め、さらに校務処理を改善する。
学習指導部	・新学習指導要領に対応した指導計画を作成し、実践と評価をしながら、授業改善につなげる。	・新学習指導要領に対応した年間や単元の指導計画を作成する。PDCAサイクルを実践し、授業後の反省・評価を基に、改善点を次の授業に反映させていく。	・新学習指導要領を基に、目標を三つの観点に分けて年間指導計画や単元指導計画を作成することができたか。授業を実践して、評価を行い、指導計画を改善することができたか。	A	・小、中学部では全面的に、高等部では部分的に、新学習指導要領を基に、目標を三つの観点に分けて指導計画を作成することができた。実施後は評価を3観点で行うように書き方を改善することができた。	・R4年度に向けて、書式と書き方を統一し、マニュアルを作成する。実施後の評価をPDCAサイクルに生かす。授業改善を目指す。
児童生徒指導部	・避難訓練、引き渡し訓練等の各種訓練及び安全教育的充実を図る。	・昨年度に実施した学校安全総合支援事業の成果を各種訓練において実践し、さらに改善し、安全教育的充実を図る。	・全職員の共通理解のもと、より実践的な訓練や安全教育に取り組むことができたか。	B	・緊急地震速報訓練により児童生徒の避難行動の定着が見られた。消防署員から避難訓練時の教職員の動きについて指摘を受けた。 ・コロナ禍における引き渡し訓練などの安全教育が実施できた。	・避難訓練時の教職員の役割について再確認し、臨機応変な対応ができる訓練を実施する。
地域支援部	・地域における本校の役割を明確にし、本校事業に関する情報発信の工夫と関係機関との連携を図る。	・関係機関担当者との情報交換方法と地域のニーズを踏まえた情報発信の工夫を行う。	・会議や研修の持ち方を工夫し、より現場に近い内容で実施することができたか。また、HPや回覧板等での情報発信を定着させることができたか。	B	・特別支援教育連絡会では、事例の共有など、より実務的な内容とすることができた。一方欠席の方との情報共有が難しかった。 ・学校だよりの定期的な発行と情報発信ができた。	・今年度の会議の持ち方を継続し、連携充実を図る。 ・事業の実施方法や、内容を工夫し、積極的な情報発信に努める。
健康指導部	・感染症・熱中症対策を適切に行い、安心・安全な学びの環境を図る。	・県の指針に沿った対策を具体的に提示し周知する。各学部・他分掌部と調整し、学習や食育環境を整え、充実した学びの場を設けるように努める。	・職員の協力を得ながら対策をすすめる安心・安全な学びの環境を整えることができたか。	A	・指針に沿った内容で職員の協力を得ながら臨機応変に対策を進めることができた。 ・給食では小学部は食器で、高等部は給食ケースでの食事形態で定着が図れた。一部教室で食することで、食堂利用者を更に減らすことができた。 ・感染レベルに応じた教室利用人数を割り出し、集会形態のめやすを周知できた。 ・「コロナ教育」を実施し、児童生徒へ対策についての意識付けを行うことができた。	・今後も指針に沿った感染症・熱中症対策を行い、安心・安全な環境を整え、充実した学びの場を設けるように努める。

進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後の自立に向けた取り組みについて、保護者、地域社会、関係機関等と連携を強化しながら、情報発信の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 産業現場等における実習や職場体験など、本校の取り組みについて方法を工夫しながら情報発信を行う。また、保護者に対しては、知りたい情報の把握に努め、ニーズにあった情報提供を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報の発信方法の工夫やニーズの把握により、地域における本校の進路指導への関心を高めたり、保護者の進路に対する分かりやすさを高めたりすることができたか。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 保護者にアンケートを取り、要望のあった事項について進路だよりで情報を提供した。また、福祉事業所ガイドブックを作成し、ホームページに掲載するとともに各家庭に配布した。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度もアンケートを実施し、保護者のニーズに合った情報を提供する。 施設説明会や進路研修会などの実施について、実施方法を含め検討する。
渉外部	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や同窓会、地域のPTA 関係団体との連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> PTA 活動については、保護者が参加しやすい行事日等の設定や体制作り、情報提供の方法を工夫する。他の団体に対しては、連携方法の工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> PTA 活動等への会員の理解が深まり、積極的な会員の参加をすすめることができたか。また、外部団体への情報発信や情報共有がうまくなされたか。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 奉仕作業を複数回に分けて、午前と午後、平日と土曜日と設定することで今まで参加できなかった方にも参加していただいた。コロナ対応で中止の活動が多く行事は少なかったが、交流の機会は昨年より増やすことができた。 Teams 等の活用で他校との担当者との連携はとれたが、職員同士のやりとりが主であった。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ対応をさらにしっかりと準備し、安心してPTA 活動に参加できる体制を整えていく。参加方法も工夫する。 ZOOM 等の活用で他校との連携がさらに強まるよう工夫していく。
特別活動部	<ul style="list-style-type: none"> 各活動を通して児童生徒が学習の成果を十分に発揮し、成就感を味わえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の実態や学習状況、新型コロナウイルス流行状況、体育館改修等の環境を踏まえ、活動の持ち方を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事や活動、各種大会等において、感染状況や施設等の状況を事前に把握、共有し、計画に反映できたか。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策等を考慮して活動内容の検討、生徒指導を行い、可能な範囲で学習の積み重ねや成果を発表を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症のレベル変更に応じた対応を計画段階で検討し、スムーズに変更に対応できるようにする。
情報部	<ul style="list-style-type: none"> GIGA スクール構想における1人1台タブレット端末の積極的な活用方法を模索し、研修や資料提供を通して授業等で活用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末の共有機能の使い方、オンライン授業（遠隔授業）の方法について研修を行い、授業での積極的な実践を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 作成した教材を共有機能を使い授業で使用することができたか。 ホストとしてオンライン授業（遠隔授業）を立ち上げ、実践することができたか。 	A	<ul style="list-style-type: none"> タブレットPC のTeams の活用について教員研修を行った。研修後、学部や学級のグループを作成して、教材等を共有することができるようになった。また、ビデオ会議を利用し、遠隔授業も行う学部もあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入初年度ということもあり、使い方を覚えることが中心となった。また、学部によって運用状況に差があったため、学部の実態に応じた利用の仕方について資料等を提示していく。また、情報教育については学習指導部とも連携していく。
小学部	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領に対応した年間指導計画の作成を行い、授業の改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 新様式で作成した指導計画をもとに、児童が目標を意識できるよう工夫を行い、評価と改善点を明確にしながら授業実践と改善に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 3項目の目標の位置づけが明確かつ指導者にとって分かりやすい指導計画、児童にとって分かりやすい授業となっていたか。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 授業実践や授業研究会を重ね、授業改善やさらなる様式の改善につながった。評価を観点別に行うことにより、児童の学びの状況をより客観的に捉え、課題や改善点を明確にすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 作成した新様式の指導計画をもとに指導の充実を図っていく。

<p>中 学 部</p>	<p>・何を、どのように学び、何ができるようになるかを明確にした指導計画を作成し、授業の改善を図る。</p>	<p>・単元指導計画に学習内容をより具体的に記入することで、「主体的・対話的で深い学び」をねらう活動を明確にし、授業の改善につなげる。</p>	<p>・各教員が、昨年度作成した指導計画をもとに、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業実践を行い、指導計画及び授業の改善を行うことができたか。</p>	<p>A</p>	<p>・単元指導計画の指導上の留意点に「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点を明記することで、意識して授業を行うことができ、指導計画及び授業の改善につなげることができた。</p>	<p>・今後は、どこができるようになって、どこが課題なのかを明確にし、次の指導につなげられるよう、生徒の自己評価と単元の評価方法を検討していく。</p>
<p>高 等 部</p>	<p>・新学習指導要領の完全実施（R4）に向けて、後半年度として位置付け、残り教科の年間指導計画や単元指導計画の見直しと授業の改善を図る。</p>	<p>・新学習指導要領に対応した年間指導計画の見直しと、その見直した計画に沿った授業の立案、実施、改善を授業担当者で行う。</p>	<p>・前年度未実施の年間指導計画をグループ毎に検討して見直しが見直しができたか。 ・授業担当者による授業検討会を通して授業の改善につながったか。</p>	<p>A</p>	<p>・5教科・領域で目標と内容の見直しと学年間の系統性を整えた。また、見直しした年間指導計画に基づいて授業立案をし、実施後、担当者間で改善策について話し合い、さらに反映させた。</p>	<p>・年次進行で実施していくために見直しを継続していく。</p>